

2023.02.19.神は私が思う以上に、私が御心にいることを望んでおられる

第二ペテロ 3 章 1 節から 2 節

JD ファラグ牧師

一緒に祈りましょう。天のお父様、恐ろしく控えめな表現です。あなたはそれ以上にとても良いお方です。主よ、あなたの御言葉に感謝します。主よ、私たちが心身ともに変えてくださいますように。今朝の御教えをありがとうございます。

主よ、私たちの牧師でああなたの忠実なしもべである JD 牧師を感謝します。

主よ、私たち皆が天国でああなたと再び共にいる時まで、彼と共にいて、導き、彼を通して語り、彼を用い続けてくださいますように。主よ、この時を祝福してくださいますように。イエスの力強い御名において祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。

おはようございます。ようこそ。来てくださりとても嬉しいです。オンラインでご参加の方も歓迎します。どうぞご着席ください。お立ちになられても結構です。すぐに再度お立ちいただきますから。まずオンラインでご覧の皆さんを歓迎します。ご参加いただきとても嬉しいです。木曜日の夜の礼拝、実はエレミヤ書を終えて、先週の木曜日から「哀歌」を始めました。しかし、今週は 1 回お休みして、バッド・ストーンブレイカー牧師をお招きし、ここで彼と私で、預言的地平線上にある事を議論する予定です。木曜日の夜 7 時からです。よろしければ、メモをされ、ご参加されてはいかがでしょうか。本当に楽しみです。その次の週はもちろん、「哀歌」の学びを再開します。私が笑っているのは、木曜日の夜「哀歌」1 章に参加された方は、その理由をご存知でしょうか。なんという書でしょうか？ どの書にも言いますが、すごーい！ とにかく、誰が知っているのでしょうか？「哀歌」ですよ。何と言うか、、、とにかく。「第二ペテロの手紙」今、私たちが学んでいる書です。うわー、なんという書でしょう。(苦笑) 実のところ、「第二ペテロの手紙」最終章を始めます。そして今日の箇所は、3 章 1-2 節だけです。2 節だけです。その理由は、すぐにおわかりになると思います。ですから、可能な方はお立ちいただき、ご無理な方は座ったままで結構です。私が読むのについてきてください。聖霊に導かれ、使徒ペテロは、こう書いています。1 節、

— II ペテロ 3 : 1 —

愛する者たち、私はすでに二通目となる手紙を、あなたがたに書いています。これらの手紙により、私はあなたがたの記憶を呼び覚まして、純真な心を奮い立たせたいのです。

— II ペテロ 3 : 2 —

それは、聖なる預言者たちにより前もって語られたみことばと、あなたがたの使徒たちにより伝えられた、主であり救い主である方の命令を思い出させるためです。

祈りましょう。よろしければ、ご一緒をお願いします。

お～ 主よ、あなたの御言葉を、私たちのこの時間を、本当にありがとうございます。私たちは今、あなたが必要です。聖霊によって、あなただけがおできになる通り私たちの心を落ち着かせ、注意を集中させてください。私たちは、あなたに全集中したいのです。私たちが良くなりがちなのが散ったり、心が迷ったりすることがないようにしたいです。

主よ、今日の御言葉で、あなたが私たちにご用意されている事を何も見逃したくありません。聖霊によって、私たちに教え、語り、導かれる事を楽しみにしています。主よ、私たちにお見せなりお聞かせになりたい事を示し、私たちの人生にお語りください。そして、あなたの御言葉を聞くだけでなく、あな

たの御言葉に心を留めます。ですから主よ、そうしてくださいますように。イエスの御名においてお祈りします。アーメン、アーメン。お座りください。ありがとうございます。今日、私が話したいのは、私たちが神の御心にいたいと思う以上に、神が私たちが御心に置かれたいのは、どういうことで、またなぜかです。神が天で、私たちが御心を把握できないようチェスゲームをされているとは決して考えないでください。そうではなく、神は、私たち自身が御心にいたいと思う以上に御心を知るだけでなく、御心にいる事を望んでおられます。皆さんが私同様なら、そうだと思いますが、特に人生で何らかの決断に直面したとき、神の御心が何であるかを知りたいのです。「神よ、あなたの御心は何ですか？」神がこう仰るとは決して思わないでください。「言わないよ。自分で解決しなさい。何が問題なんだ？」違います。私が主との歩みで学んでいることの一つですが、神はいつも私の人生の状況を演奏され、私が神の御心通り、神の道に従って歩める環境をおつくりになり、私の人生の歩みを奏でてくださいます。

「これは道だ、これに歩め。」(イザヤ 30:21)

これは私と聖霊の間での良いことであり、私の霊は、聖霊によってこれが神だと証しします。

「これが神の御心。これが道です。」これが私に対する神の御心で御計画です。とりわけ、何が何だかわからない時でさえも。大抵、神の御心を示す良い兆候です。私たちは、神の御心はきちんと一括されて、完璧に理解できると思いがちだからです。いいえ、大抵、神の御心には信仰が必要で、私たちは信仰で踏み出すのです。そして、神はその信仰を尊ばれ、神はその信仰を喜ばれるからです。ヘブル人への手紙(11:6)にあるように、

「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。」

私も含めて、私たちに望むのは、今日の学びを、人生にこの環境を作り出すためあらゆることをし、手段を選ばれない神のレンズを通して見ることでと思います。そうすれば、私の人生の状況が矛盾しているがいが、私は神の御心にいることができます。すべてが混乱と混沌の中にあり、逆境に立たされ、あなたは、自分の人生の試練の真っ只中にいたとしても、神の御心の真っ只中にいることができます。弟子たちに聞いてください。イエスが弟子たちを舟に乗せ、イエスに向こう岸で会うため湖に送り出し、ガリラヤ湖の真ん中で、正に生死にかかわる危険な嵐に遭遇します。そして、イエスはそれを承知で彼らを送り出されました。彼らはこの嵐という試練、人生の嵐の中で、しがみついています。彼らは、人生における神の御心の真っ只中にいます。特に、逆境や試練にあるとき、私たちは自分の人生の状況を誤解すると、大きな間違いを犯すと思います。

「あ～これは神の御心ではない。」実は、きっと神の御心なのです。「ええ、でも、私の周りのことを見てください。」私は、全記述の中で最も好きな紅海でのことを持ち出すつもりでした。お～神の御心がいつも、私が「紅海の明瞭性」と呼ぶ、ようだといいのに。あの海が真っ二つに割られた時、疑問符はありません。「こっちに行くのが神の御心だね。」そう思うでしょ？ こっちは乾いた地面。後ろからはエジプト人の猛追。「そう、これが神の御心だ。さあ、行こう。」いつもそうならいいのですが。でも時に、目で見えない時があります。私の肉は、目で見て歩みたがります。私は見たい。しかし、それは信仰ではありません。信仰とは、「百聞は一見にしかず」ではありません。それは肉が望むところです。信仰とは、信じるのが見るのです。(ヨハネ 20:29 参照)

信仰によって信じる。それを神は尊んでくださり、あなたに御心を明らかにしてくださいます。神は、そうなさる準備をしておられます。そう考えると、ひっくり返してみましよう。議論の目的のために、神はそうならなかったら、神がどういう方かと、矛盾しませんか？ それは神のご性質、神の御言葉

と相容れないのでは？ 神は、私を悪で誘惑されません。神は、私を不従順を促すような状況にはおかれませんが、それは神というお方ではありませんし、神の在られ方ではありません。その逆が真実です。神は、私が神の召しに背き、神の導き、ご命令に従わない転落になる状況や歩みをご用意されることは御出来になられません。「ローマ人への手紙 12 章」最初の 2 節に注目ください。有名な一節で、何年も前ですが、ローマ人への手紙 12 章 1 節と 2 節の学びがあまりにひどかったのを覚えています。その時、ここにいらっしゃった方、本当にごめんなさい。あなたが戻って来たなら、そのことで主をほめたたえます。でも.....そんなに悪くはなかったんですが、「いや、ここにはもっと多くの事がある。」という教えのひとつだったんです。それで、次の週にもう一度、同じ箇所を教えました。パート 2 ではなくて、翌週にパート 1 のやり直しという感じでした。それでも、私は終わって車で家に帰り、

「主よ、私は何をすべきなのでしょう？ これに関して、来週もですか？ この 2 節だけでも、多くのことがあります。あなたはよくご存知です。」使徒パウロが聖霊によって、ローマの教会に書いた手紙を聞いてください。12 章 1 節です。

「そういうわけで、あなた方に勧めます....」嘆願する (beseech) の意味をご存知ですか？ 私はどうかあなたにお願いします。懇願します。

ーローマ 12:1ー (口語訳)

兄弟 (姉妹) たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。

ーローマ 12:2ー

あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

そこで、今日の残りの時間は、ローマ人への手紙 12 章 1-2 節を再度学びます。いいえ、しません。興味深いですね。神の御心が何であることを証明したいですか？ 留意ください。あなたが証明するのは、何が神の御心で、何が神の善意で、何が神の御心に受け入れられるか、そして、限りなくもっと大切なものは、何が神の完璧な御心なのか。つまり、あなたが改善出来る事は何もありません。あなたはそれを証明するのです。私は、自分が神の御心にいることを証明する。これは良く、喜ばれ、完璧で、そしてそれが神の御心であることを私は証明できる。どうやって証明するのですか？ あ、1 節と 2 節の最初の箇所ですね。「生きた、聖なる供え物としてささげる。」そこに問題があります。私は蹴って、戦って、嘔んで、引っ掻いて、あの祭壇に行く。生きた供え物？ 私はまだそれと戦って生きているのに。つまり、死んだ供え物なら、問題ありません。生きた供え物？ 問題です。それが 1 番です。

2 番：「神に喜ばれる、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」

そして、ある人が言ったように、適切だと思いますが、世の型にあなたをはめないでください。世に妥協しない、迎合しない。それはあなたへの、神の御心ではありません。しかし、その代わりに、私は神の御言葉と御言葉の神が大好きです。神は決して「こうするな」と仰らず、「代わりにこうしなさい。」と仰います。不義を避け、代わりに義を追い求めなさい。そのリストがこれです。

子どもの手から何かを取ろうとした時、子どもがそれを強く握りしめていたら、”代わりに”もっと良い

ものを与えますよね。「それを捨てて、こっちを取りなさい。」ですから、この世に合わせるのではなく、代わりに、心を新たに（変容）するのです。ギリシャ語原語で「毛虫/キャタピラー」英語の変容/metamorphosis の語源です。お～皆さん、そういう話を聞いたことがありますね。毛虫は繭の中にいますね？ コクーン（繭）って言います？ ええ、長い一週間でしたから。そうですね。毛虫は奮闘しますが、蝶に変身します。変容、変身です。毛虫が蝶に変身します。それがパウロの言っていることです。私たちは変身する。変容するのです。ちょっと待って。どうやって変容できるの？

まず、あなたはこの世と妥協してはならない。代わりに、“心を新たにすることによって”造りかえられる。ペテロもここで、そのことを反復しています。今日の箇所、ペテロはこの彼の最後の手紙で、別れの言葉を述べながら心を注いでいます。つまり、彼は当時のクリスチャンたちに、熱心に警告します。

「思い出すことの最重要性を」殆どこんな風です。「思い出すことを忘れないで、忘れないよう思い出しなさい。」なぜなら、私たちは忘れてしまうから。それがポイントでした。このことは、2 通目の手紙の冒頭で学んだ通り、ペテロはまず、この手紙を書く目的を述べています。「第二ペテロの手紙 1 章」に戻ります。12 節から、ペテロが何度も言っていることに耳を傾けてください。

—II ペテロ 1:12—

あなたがたは既にこれらのことを知っており、また、いま持っている真理に堅く立ってはいるが、わたしは、これらのことをいつも、あなたがたに思い起させたいのである。

—II ペテロ 1:13—

わたしがこの幕屋にいる間、あなたがたに思い起させて、奮い立たせることが適当と思う。

—II ペテロ 1:14—

それは、わたしたちの主イエス・キリストもわたしに示して下さったように、わたしのこの幕屋を脱ぎ去る時が間近であることを知っているからである。

ペテロが十字架につけられる以前にイエスがペテロがどのように死ぬかを告げられたことを振り返っています。

—II ペテロ 1:15—

わたしが世を去った後にも、これらのことを、あなたがたにいつも”思い出させる”ように努めよう。

それは、思い出させ、頭の中で記憶を新しくすることです。1 章と 3 章の違いは、純真と従順という 2 つの具体的な事柄にペテロが焦点を当てていることです。純真と従順、この 2 つは私たちの人生において神の完璧な御心を証明します。それが、今日私たちが見ていく事です。具体的に、私たちの頭の中の純真な思いと生活での従順な行動です。1 節、純真さについて話しましょう。「純真な思い」ペテロがここで強調しているのは、この二つの手紙の目的が、「思い起こさせること」で、ちなみに、思い出すため書かれたのは、彼が話したことをすべて記録するために書かれたのです。あなたが別れの言葉を聞きたい人がいたとするなら、それは使徒ペテロのような人であり、他の多くの人がそうでしょう。興味深くないですか？ 自分の残り時間が短いとわかると、本当に早くせねばなりません。自分に時間がないことを知ると、「私が去る前に言わねばならないことがあります。よく聞いておいてください。」これが使徒ペテロの別れの言葉です。「そう、あなたは思い出す必要があります。わかっているのは知っています。新しいことではありませんが、どうか思い出してください。」何を思い出して欲しいのですか？

ええ、私の手紙の目的は、奮い立たせる事です。興味深い単語で、この場合、健全な思考や純真な心、心を新たにするなど、何かをかき立てる、目覚めさせるという意味が含まれています。これには実は非

常に興味深い神経学的力学が関連します。私たちの脳には、こういう経路があるからです。行動・ふるまいを繰り返すと、常習を生み出します。神の御言葉によって心が新たにされると、こういう感じ、最近よく言われることで、洗脳ではありません。脳を洗うのです。言葉遊びではありません。それは、神の御言葉の水で思いを洗うことです。いや、私たちはこの世に出て、この世は私たちを洗脳しますね。壁に取り付けられた物に電源を入れるたび、それがあなたを洗脳し、プログラミングします。番組（プログラム）、プログラミング、プログラミングされます。チャンネル：チャネリング（交信）。その辺、「聖書預言・アップデート」で話しました。私はそれに妥協するのか？ それがこの世です。神は仰います。「それをしてはいけません。この世にそれをさせてはいけません。この世に押し込められてはいけません。あなたはプログラムされ、洗脳されてしまいます。そうではなく、わたしの御心は、あなたが心を新たにすることです。」新しい考え方。思いが洗われます。思いが浄化されます。つまり、神の御言葉が掻き立てます。私は、思いを新たにし、かき立てられ、振るい起こされました。それは再度、神の喜ばれる完全な御心を証明します。「誰にですか？」私とあなたにです。何か確信が必要なことがあるなら、神のご方法と御心に従って私が歩んでいるということです。これこそ私が必要とする証拠です。自分自身で証明できるようになりたいです。どうやって自分自身に証明すればいいのか？ なぜなら、そこには心の刷新と変容があり、それが証明されます。ちなみに、今思いついたので、聖霊だと思えます。個人的な例を挙げるなら、妻と私が初めてここに来たとき、基本的には、一からやり直して、すべてが信仰の歩みでした。私たちは、ここに来てこの教会を始めることが神の御心だと信仰によって信じました。でも、周りは言いました。「違う、違う。」

例：「ああ、もちろんハワイ召されるなら、”主よ、ここに私がおります。私を遣わしてください。”
(イザヤ 6:8) だよ。マジで？ それは主ではない。あなたの肉の思いだよ。」実話です。

本土の教会の役員は、私がこう言うと、「神は、私にオアフ島に行き、この教会を始めるよう召されていると思う。」役員の中の一人が、実話ですが言いました。「それは神の御心ではないと思う。神の仰る事を正しく聞いてると思えない。スペルが違うと思う。オアフではなく、オハイオだよ。」—(笑)—
それに対して私は、「下がれ、サタン。」と答えました。いやいや、そう言ったんだっただけかな？ 言ったかもしれません。面白いことに、今日はよりによってオハイオ州からオンラインメンバーが来ておられます。ようこそ、私たちはあなたを愛しています。いいえ、私は教会を始めるためオハイオに召されていませんでした。ここが神の御心だと思います。しかし、話の向かう先は、敵はすぐそこにいて、疑いの種を植えます。

「それは神の御心ではなく、カイルアガールをカイルアに返したいだけだろう。あなたはただ、雪と氷点下 40 度の気温と除雪から解放されたかっただけだろ。私はその辺りで一番長い私道を持っていました。そう、そういうことだよ。あなたはビーチサンダルと短パンを履きたいだけだよ。」敵はすぐそこにいました。私には証拠が必要です。証明が必要です。これが神の御心だと。どのようにそれを証明すればいいのか？ 私自身にです。なぜなら、私は... 正直に言いましょ。敵がそこで疑いの種を蒔き、私たちの思考のしなやかな土壌と出会い、発芽し芽を出すのを許すと、その疑いの種は、お〜絶好調です。サタンは、あなたを出来る限り、その疑いの道に連れていけるでしょう。そして、次はこうなります。「神の御声が聞こえない。。あなたの御声じゃなかった。自分でした。」ああ、主よ……最悪です。しかし、根っこにこれが神の御心だという証拠があれば、根から実がなります。これが神の御心であることを、こうして証明できます。「ピリピ人への手紙 4 章 6-8 節」、これは、実は私にとっての人生の聖

句で、以前にもシェアしたことがあります。心配性のプロとして、私は不安の博士号があります。ですから、この箇所は、神がこの分野で私に勝利を与えて下さるよう、私の人生で本当に長年に渡って用いておられます。皆さんもよくご存じだと思います。ピリピ4章6節です。

ーピリピ 4:6ー

何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈りと願い(または、嘆願)とをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

ーピリピ 4:7ー

そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安(平安の神より)が、あなたがたの心と”思い”とを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

ーピリピ人への手紙 4:8ー

最後に、兄弟たちよ。...

(8節がとても重要です)(リストを見てください)

...すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。

若い頃、上司がよく言っていた言葉です。「考え方が胡散臭いから、首から上を検査した方がいい。」
ー(笑)ー 誰から盗んだのか知りませんが、なかなかいいですよ。実際はかなり正確です。なぜなら戦いの場は思考ではないですか? 「箴言」にもあるように、「人は心で考える通りの者だ。」心は考えるのではなく、感じます。いいえ、「人は心で考える通りの者。」私たちは、自分が考えたとおりになります。ここでパウロが言っているのはこのことです。何事も思い煩わず、あらゆることを祈り、あらゆることを神に感謝する。ちなみに、"think/考える"には"thank /感謝"が伴います。そして、考えれば考えるほど、感謝することがたくさんあることに気づきます。ここでパウロが言っている事です。「神に思いを留めなさい。」興味深いのは、ここで気をつけないといけませんけど、あ〜家内はここにいませんから、そこまで気をつけなくてもいいです。ー(笑)ー 健康について。いいですか? 健康。話していいですか? 人によっては、ええ、気をつけないといけなかもしれませんね。健康志向の方には、無神経に聞こえるかもしれませんが。でも、いけませんね。良いことです。良いことです。私もそうだったらいいのに。しかし、私たちは体に入れるものには気を遣うのに、思考に入れるものは気を遣いません。私は自分の思考に入るのを許している事は、不純なもの、不義なもの、高貴でないもの、霊的でないもの、神聖でないもの、敬虔ではないもの、正しくないもの、不義。リストを一通り見ることができます。何であれ高貴なもの、称賛に値するもの、純真なもの、愛すべきもの、優れたもの、それらについてを考えなさい。自分の思考に何が入るのを許すか、気をつけなさい。そして再度、敵はすぐそこについて、あなたの思考にそういう考えを植えます。まあ、とにかく、そのことについては、本が一冊書けるほどですが、書きません。良い内容にはなりますよ。私はこうです。「本当に?」敵が入ってきて、「こうなったらどうする?」ひ〜〜考えたことなかった。もしや、もしや、もしや、もしかして、もしかして、もしかして、次の瞬間私は「神よ〜〜!」という感じで神を疑います。正にサタンが望んでいることです。そして、頭の中でグルグル回ります。私の思考は、言わば時速100万マイルで間違った方向に進みます。そして、気がつくとき、私はその道をずっと進んでしまい、逆のことをやっています。あらゆることを心配し、何も神に感謝せず、確かに何も祈りません。逆になってしまいます。こっちが神

の御心です。このように神の御言葉で心を新たにします。それに加えて、賛美曲も、神の御言葉が入っているかどうかです。最高の賛美と称賛の音楽は、神の御言葉だにご存知ですか？ 詩篇全体がそうです。詩です。実際に歌なんです。脳の配線は、私たちが音楽を楽しむよう設計されています。ですから、永遠で、神を賛美し、御座の前で礼拝し、歌い続けるのです。音楽が脳に与える影響も研究されていて、これも敵は知っています。でもそれは、思考の浄化で、心の刷新で、すると、その変容がされるのは、そう時間はかかりません。私たちは、そういう事を考えると、神の御言葉というレンズを通して考えます。神の御言葉が、すでに私の思考を新たにし、人生を変える働きをされます。思いの、思考生活の純粹さ、私たちが思考に入ることを許したものの、それが結果として行動になります。皆さんきっと聞いたことがあるでしょう。「思考に蒔けば、行動が刈り取る」（考えたことが行動に現れる）その通りです。これこそペテロが語っていることで、私たちに思い出させたい警告です。以前にもお話しましたが、時に、そこには、悲しいですが、自らの危険に繋がる断絶があります。断絶とはどういう意味かというと、聖書聖句をこう読むことになります。すぐさま聖書箇所を読み飛ばす。つまり、さあ。最初の2節、導入部だから、本題にいこう。ところで、来週の3節は、私の大好きな「主の来臨」についてです。来週が待ちきれません。もちろん、来週までに携挙が起こらなければですが、それもまた良しです。しかし、私たちは1節と2節を急いで、3節に行きたいと思いがちですがそんなに慌てないでください。これが理由です。

「ああ、わかっている、わかっている、わかっている…」という時に、断絶が起きます。いいえ、あなたがわかっていることは知っています。ペテロは、あなたがたが知っていることは知っていると語ります。

「そうですか、ではなぜ私に言うのですか？」あなたがたに思い出してほしいからです。「忘れないように？」ええ、忘れてますよ。もうあなたがたは忘れてますよ。「ええ、かなり初歩的ですから。」そうなんですか？ それなら、基本に立ち返って思い出す必要がありますね。主によって成長するにつれて、私たちが自分自身を切り離しがちな基盤の原則を思い出すことです。「ああ、それって新米クリスチャン向けですよ。」本当に？ 聞いて下さい。今でもミルクが要るはずでは？ わー、わー、わー。わかりました。私にこれが必要です。むしろ、誰よりも私に必要だと言えるかもしれません。「ええ、でもあなたは牧師ですよ！」わかっています。だからなのです。私たちは、基盤の原則や基本的真理を忘れ、自分自身を切り離してしまうからです。ペテロが語るのは、「いいえ、あなたは思い出す必要があります。あなたは、私は、聖霊によって記憶を新しくする必要があります。」それがどんな意味か分かりますか？ あなたの記憶が刷新される必要があります。奥が深いですよ。誰かに会ったときにこう言いますよね。私は名前を覚えるのが苦手なので、いつもするのが、時に自分の名前を忘れることがあります。イニシャルですけどね。知っている人が、「お～自分の記憶よ～よみがえれ。お名前は？」それで18回もお名前を教えてください。その人の名前を忘れてしまったから。私たちは、神の御言葉でもそれをしていきます。忘れてしまうので思い出す必要があります。思い出し、思いを新たにします。それが伴います。「従順」について。皆さん、準備はできていますか？ 2節、ここでペテロは、私たちに、旧約聖書の預言者たちの言葉や新約聖書の使徒たちを通しての主の命令と御言葉を思い出してほしいのです。ここでペテロは、私たちに、旧約聖書の預言者たちの言葉や新約聖書の使徒たちを通しての主の命令と御言葉を思い出してほしいのです。皆さん、わかりましたか？ つまりペテロは、旧約聖書の預言者と新約聖書の使徒を同じレベルに引き上げます。留意すべきは、この区別です。旧約聖書の預言者たちの「言葉」、でも新約聖書の使徒たちには「言葉」とは言いません。彼は「命令」と言います。私たちに

「命令」と言わせたいのです。なぜ私たちが、「命令」と言いたいのか説明します。以前にもお話ししましたが、このことはいくら話しても足りないです。良い注意喚起です。ははは。どのように、なぜ神の御心が私たちに命令であってほしいのかを思い起こさせます。第一ヨハネの手紙(5:3)

「その(主の)戒めはむずかしいものではない。」イエスは仰います。

「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」(マタイ 11:30)

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ 11:28)

つまり、神の命令はこういう重荷ではありません。「ああ。。。神は私にこうするよう命じられた。。。」

ああ。。。なかなか上手かったでしょ？ ー(笑)ー 皆さんも言えますよね。「私もよく分かります。」

「お～主よ。主の命令だ～！！」ああ。。。違います！！ こうあるべきです。「主の命令だよ。」命令？ やった～～！！ 「どうしたのです？」 どうしたのか言いましょう。ええ、神のご命令は、神が可能になさいます。神は、聖霊の御力で可能にせずには、私たちに何かをするよう決して命じられません。神は”出来ない”が御出来になりません。神がどういうお方であるかに矛盾します。主は、私たちが従順になるのを望んでおられます。私たちが御心にいる事を望んでおられ、私たちがご命令に従えるよう、その環境をも、全てを整えてくださいます。神が私たちに何かするよう命じられると、聖霊が仰います。「OK。準備はいいですか？一緒にしましょう。」「私には無理です。」「無理なのは分かっています。わたしにはできます。」それが、3段階プログラムです。失礼を言うのではありません。3段階ステップをご存知ですか？

ステップ1：自分にはできないことを認識する。

ステップ2：主は御出来になるのを認識する。

ステップ3：(言いますよ。)

ステップ3：主にさせていただく。

聖霊に委ねあなたの人生を支配していただく。あなたの中で、あなたを通して、あなたの代わりに、聖なる人生を聖霊に生きていただく。

聖なる霊=聖なる生活(人生)

ですから、あなたは命令を受けると、「私はこの命令にどう従えばいいでしょう？」

聖霊は、「わたしに任せなさい。」「だから命令なのを望むのですか？」そうです。

2箇所を考えます。まず黙示録3章、フィラデルフィアの教会。

イエスは、ヨハネにこう書かせられました。

「あなたは忍耐についてのわたしの言葉を守ったので、」(黙示録 3:10)

何ですって？ 主が命じられたの？ 命令？ 忍耐して耐えるという戒めで、彼らはその戒めに従ったの？ はい。どうやって？ なぜなら、それが命令だったからです。「悪いことだと思いました。」いいえ、良いことです。それが命令なら、その命令に従うよう神が御力をお与えになり、そのレベルにまであなたを引き上げられるからです。私は命令にしてほしいです。私は、命令でなければ困ります。命令であれば従うよう聖霊が御力を与えてくださることが保証されているからです。話が堂々巡りになっていませんか？ なってます？ そうなら言わないでね。ー(笑)ー

皆さん分かりましたか？ そう願います。これが精一杯です。神の御心、神の召し、神の命令は、神が可能になさいます。主は、私たちの従順を促し、育ててくださいます。木曜日の夜、『哀歌』1章でこの

ことについて話しました。お～恐ろしいです。詩的ですよ。生々しく、でもユダの罪の故に恐ろしく、神に従わない罪の結果に対する嘆き呻きで、難しいですが、良いことです。罪が何を引き起こすかを知ることができるから。ひっくり返すと、それが罪を引き起こすなら、従順は何を生み出すでしょうか。木曜日の夜、私たちはその質問をしました。いつも通り自分自身に問いかけます。でも、よく考えてほしいんです。神がまだお持ちでなく、私たちが捧げられる唯一は何か？ こう言いますよね。何でも持っている人に何をあげたらいいの？ つまりこのお方は神で、神は全てをお持ちで、全てご存知です。神はどこにでも偏在され、全知全能です。でも神が、必ずしもお持ちでないものとは？ 服従。私の従順です。私には自分の意志があるからです。神は、ご自分の意志を私に押し付けられません。無理に従わせることはなさいません。私自身の意志によって私は従うことを選びます。今、私が決断するのは、頭での決断です。私は主の命令に従うと決断したら、聖霊が働いて下さり、私が従うと決断した命令に従えるよう私に御力を与えてくださいます。ええそう、神は私に無理強いなさいません。一旦私が決心して、自分の考えを変えても、主は私の心を変えてくださいます。主が私の人生を変えられます。でも、私がある決断するまで主はずっと待っておられます。一旦自分がそうすれば、ほ～主が駆けつけてくださいます。ですから、命令であってほしいのです。忍耐強く耐えなさいという戒め。命令です。

「主の命令は重荷とはなりません。」(Iヨハネ 5:3)

これは私にとってリトマス試験です。この点、さっと話します。私はいつも、解放されたら真理を聞いたのだとわかります。逆に、自分に重くのしかかると、それが偽りであるとわかります。説明します。

「真理はあなたがたを自由にします。」(ヨハネ 8:32)

「子(イエス)があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです。」(ヨハネ 8:36)

イエスは言われました。

「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」(マタイ 11:30)

わたしは重い道のをあなたに置きません。それは完全に70年代、80年代の話です。-(笑)-フラッシュバックします。私は、"思い出"しました。私はこのある種のジレンマを抱えていて、この葛藤に苦勞し、行ったり来たりしています。すると聖霊が示されます。非難ではありません。もし誰かに何かを言われ、重い道ので、重くのしかかるなら、それは主ではないことがわかります。なぜなら、"主の命令は重荷にならない"からです。逆に、誰かが私と真理を分かち合い、自由と平安がもたらされると、それは主です。なぜなら、"主の命令は重荷にならない"からです。ですから、純真と従順は同居します。これは命令です。私たちは、主が神聖であられるように、神聖であることを命じられています。私たちの思考が純真なら、私たちの行動は主の命令に従順です。このように言いましょ。神は、聖霊によってできるよう私たちに御力をお与えにならないことを、召したり、命じたりはなさいません。あなたが人生で神の御心を求めている、それを見ながらも、聖霊があなたと共に証しされず、平安も自由もないなら、聖霊がその方向へ行く御力を与えておられると感じられないのは神の御心ではない大変明らかなしるしです。それは神の叡智ではありません。ヤコブは、神の御心かどうかを判断する目安、完璧な雛形を私たちに与えてくれています。上からの知恵は、第一に清さです。

「上からの知恵は、まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実で満ち、偏見がなく、偽善もありません。」(ヤコブ 3:17)

「義の実を結びます。」(ヤコブ 3:18 参照)

それが神の御心かどうかを知る雛形であり目安です。何よりもまず不純なら、どうです？ 神の御心ではありません。神は決して御言葉に反されません。先週もお話しましたが、誰かが近づいてきたら見極めてください。彼らはあなたに言います。「神は私に仰った～！」わお。神は私に言われませんでした。そして、神が彼らに何と仰ったのかを知りたくなります。すごい！という感じで。「神が私に示された～！」う～私はふさわしくないんだ。主はあなたに何を示されましたか？ 主はあなたに何を語られましたか？「神は私に、彼と結婚せず同棲するように言われました。」いいえ、神はそんなこと仰いません。それは神の御心ではありません。なぜなら神の御言葉ではないからです。神の御言葉に矛盾します。神の御心というテーブルの4本の脚、それを説明しましょう。まず、神の御言葉、神の平安、神の摂理、神の確証（確信）でなければなりません。それを説明します。何よりもまず、あなたはそれが神の御心かどうか知りたいなら、神の御言葉と互換性があるか、整合性があるかです。それで、そういう多くを排除できます。事実、場合によっては99%です。もし神の御言葉に反するなら、それは神の御心ではありません。当たり前のことの把握ですね？ OK、それが1つ目です。

2つ目：神の平安

ピリピ人への手紙4章6-8節をちょうど読みました。パウロが、聖霊によって、そのように説明するのが大好きです。神の平安/平安の神（言葉遊びではなく）があなたがたの心と”思い”を、超越した平安で守って下さる。わお～また別の言葉が出ました。私たちは変容と超越が必要です。

「やりすぎですよ、牧師さん。1日では足りませんよ。」

「超越」意味がわかりますか？ この神の平安は、あなたの理解を遥か超えます。人智が及びません。人の理解を超えます。あなたの頭では「ダメ、ダメ、ダメ、ダメ。」となっているからです。「私は平安なんて持てない。論理的ではないから。」思考は、どうぞ眠らせて、問題の核心に行きましょう。なぜなら思考は戦います。論理的に推論しようとするから。（ぶつぶつ言いながら）「あ～平安がない。」あなたは何が起きているかわかりますか？ いいえ、これが神の平安です。あなたは見誤っています。誤解しています。これが神の平安です。これが平安だとイエスが仰いました。

「わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。」（ヨハネ14：27）

この世は、あなたの人生に起こっている事を前提に平和を与えます。それってどういう効果か？ 物事がうまくいっているときだけ平安なら、年に1分半くらいは平安でしょう。それが前提で縛られているなら。違います。この平安はそれを上回り、超越します。それを前提にしません。それを条件にしません。周囲が崩壊していても、神の平安を得ることができます。心に余裕が保て、思考が落ち着き静かになります。あの言葉は何だったっけ？ 学生時代がフラッシュバックしてきました。「静まりなさい。」でした。あ、やばい.....たくさん言われましたね。「静まりなさい。」僕にはできません。これには臨床名があります。「静まりなさい。落ち着きなさい。」いいえ、僕は落ち着けません。しかし、それが聖霊の働きです。あなたの心を落ち着かせ、思考を静めます。この平安は、超自然的平安で、あなたの人生で何が起こっても左右されません。

「勇気を出しなさい。」（ヨハネ16：33）

元気を出してください。

「あなたがたは、世にあっては苦難があります。」（ヨハネ16：33）

イエスがそんなことを「ヨハネの福音書16章33節」で、仰っていなければよかったのに。「多少困ったことが起こるかもしれない。」と仰っていたらよかったのに。いいえ、主は「あります。」と仰いま

した。原文で調べてください。もっとひどいです。あなたがたはこの世で絶対的に苦難、試練、困難を経験します。でも、元気出してほしいんです。なぜか？

「わたしはすでに世に勝ちました。」(ヨハネ 16:33)

そして、わたしが世に打ち勝ったこの平安をあなたがたに与えます。そう、あなたがたはこの世に押し込められ、妥協しています。止めなさい。わたしはあなたを変容させ、それを超越させたいのです。わたしが聖霊によって、あなたのために、あなたの代わりに、それをします。自分の力だけでしようとするのは止めなさい。私たちの中には、主に対して強すぎる人もいます。そんな風に考えたことはありませんか？ 私たちはいつも祈ります。「神よ、私に力を与えてください。」神はこう仰っているのではないかと思います。

「それが問題なのです、JD。あなたの力が強すぎます。」使徒パウロの言葉ではないですか？

「私が弱いときにこそ、私は強いからです。」(II コリント 12:10)

彼は何について話しているのか？ 自分の強さについてです。この人物は強い人です。しかし、彼自身の強さなのか？ いいえ、私は自分の強さを誇りません。

「私が弱いときにこそ、私は強いからです。」(II コリント 12:10)

なぜ強いのですか、パウロ？

なぜなら「私を強くしてくださる方(キリスト)によって、私はどんなことでもできるのです。」(ピリピ 4:13)

それは、主と聖霊の御力によって、です。一番哀れなクリスチャンは、自分の肉の力で解決しようとしているクリスチャンでしょう。絶対達成不可能です。達成不可能で持ちこたえられません。間違いなく持続不可能です。ですから、この平安があるとき、それが聖霊によるもので、主の御心だとわかります。それが2つ目です。

3つ目：摂理

そこで神は状況を整え、扉を開き、時に、扉を閉ざされます。有名なオズワルド・チェンバースだったと思います。なるほど、私たちは神が御心を現して扉を開けてくださるのを待っています。私たちの言い方は、このクリスチャンっぽい言葉を使って、「神は扉を開いて下さる。」神が扉を使われなくなったら？ 神が窓を使われたいなら？ あ、それは考えていませんでした。まあ、主は神です。なさりたいことは何でも御出来になります。私たちは、肉の有限的理解に神を置き、神がどのようにされるかを予測します。神は、「わたしはそうしたくありません。わたしは神です。わたしの望むことは何でもできます。」神様、承知いたしました。「わたしは今回、別の窓を使います。」主が扉をお使いになるなら、「わたしが窓を開けると、あなたは窓があることさえ知らないでしょう。あなたは窓を見てさえなかったですよ。わたしは窓を開けましょう。それがわたしの御心です。」

主は何でも御出来になります。ですから主は、扉や窓を開けてくださいます。

「窓に変えましょう。窓 (Windows)の方が好きだから。」マイクロソフトとは関係ありません。全く関係ありません。でも、そう窓です。神は窓を開いて下さいます。主が歩みの振り付けもされます。神がその神聖なお約束、神の摂理をすべて手配くださいます。あなたはそれが神だと分かります。神のなさることは、紛れもなく神ですから。そして、主はそういう方法でなさるので、「あれって神？」と頭を悩ませることはなく、「神以外あり得ない！！」となります。そうなったのは、神が窓を開けてくださったからです。そもそも、神が窓を取り付けられました。それは神に違いありません。神の摂理、神が

提供くださいます。神は物事を開かれ、あなたに望んでおられない事を閉ざれます。

再び、フィラデルフィアの教会を思います。主は彼らに仰います。

「わたしが開くと、だれも閉じられず、わたしが閉じると、だれも開けられない。」

非常に緩い言い換えですけどね。皆さん要点はわかりましたか？ 神の摂理です。神の御言葉、神の平安、神の摂理についてわかりましたね。

4つ目：テーブルの4番目の脚「確証（確信）」です。

では、聞いて下さい。多くの場合、あなたのことを本当に愛し、心配するキリストにある兄弟姉妹から来ます。いつもではありませんが、説教壇から会衆席ではなく、あなた方会衆間です。私がやっと教え終わった後のこの場所でなされるミニストリーです。神は時に、適切な言葉を語られます。それは聖霊です。兄弟姉妹は、何が起きているのかを知らないからです。彼らはあなたのところにやってきてこのように見えたり、聞こえたりするかもしれません。自分を例にとって説明しましょう。また私が犠牲になります。「JD、ただあなたを励ましたいの。」そうなんですか？「そうです。」私は、いつも励まされます。

「ええ、本当に主が私の心にあなたを置かれました。」主が？「そうです。」「だから、祈ってたんです。」私のために祈ってくれたの？「そうです。」「神が私に聖句を与え、聖句が頭に浮かびました。」彼らは、あなたが瞑想中に浮かんだ聖句を引用します。さあ、トルコの諺ですが、「一人の人があなたをロバと呼んだら気にせず、二人があなたをロバと呼んだら鞍を買いなさい。」私がいくつ鞍/サドルがあるか見てください。二人以上の証人の立合いのもと、すべてを立証しましょう。その確証はこれです。彼らは全く知りませんでした。聖霊はご存知でした。彼らはあなたの所にやってきて言います。

「あなたのために祈ります。あなたのための御言葉があるんです。」彼らは”その節”を引用します。あなたはこうなります。

「主よ！おお～あなたはとても良いお方です！ あなたは大変良いお方です。-(笑)- お～主よ、確証を確信を感謝します。今、確信しました。それが聞きたかったんです。承知しました。これはあなたの御心です、主よ。これがあなたの御心です。」

神の命令には、その命令に従うため神の御力が包括されています。だからこそ、あなたや私は、それが命令であってほしいのです。なぜなら、それには聖霊の御力が包括されていて、従うことができるからです。決断に悩むあなたを私は本当に励ましたいです。神は、あなた自身が神の御心のままに思う以上に、あなたが神の御心にいることを望んでおられます。主は既に、舞台裏で動いておられます。あなたをそこへ向かわせるために。ですから、あなたはただ主を待ち、主を信頼してください。

そして、その上でひとつ。これは重要なことです。私たちはいつも言います。

「主を待ちなさい、主を待ちなさい。」

それは良いことです。しかし、主があなたを待たれているとしたらどうでしょう？ う～つま先の1つや2つは踏んだかな？ 自分が踏んでいるんです。-(笑)- 「私は主を待っています。」本当に？ 主は仰います。「わたしがずっとあなたを待っているんです。早くショーを始めようよ。どうなっているのですか？ あなたは足を引っ張ってばかりです。」モーセのことを考えます。彼は神に祈り、泣き叫んでいます。神はこうです。「祈るのをやめて、前に進みなさい。」いや、本当です。時に私たちは、その下に隠れるんです。「だってそれについて、祈ってるから。」「あなたはそれについて、5年間も祈り続けていますよ。」主は、「もう、いい加減にしなさい！ その祈りは、5年前に既に答えています。先に進

みましょう。わたしはずっと待っているのですよ。」

OK。締めくくりに気分が良くなりました。締めくくります。カポノ、上がってきてください。皆さん、お立ちください。この継ぎ目のない締めくくり方大好きです。元気を出してください。あなたが神の御心を求めているのなら、神はあなたに御心を示されます。

天のお父様、ありがとうございます。主よ、確かに、私たちはこのことを思い起こす必要がありました。私たちは、思い出すことが必要です。主よ、感謝します。ペテロが私たちにこのことを思い出させてくれました。主よ、私たちが聖霊の御力によって忠実に、従順に、純真に歩んでいるのをあなたに見つけていただきたいのです。主よ、これはあなたの命令です。私たちはあなたの命令に従いたいです。主よ、私たちが従えるように、聖霊が御力を与えて下さるよう聖霊に依り頼みする決断をしたいです。聖霊が御力を与えて下さらなければ、私たちが従える道はありません。

主よ、今日が転機、基点となりますように。特に、この分野で苦闘している人々、敗北の中で歩んでいる人たちに主よ、彼らに勝利の変化、変容が起こることを祈ります。

主よ、聖霊によって、思いが新たにされ、清められ、人生に従順さがもたらされますように。私たちが聖なる民として、聖なる御言葉を実行するための聖霊の「ご方法」を感謝します。イエスの御名において祈ります。アーメン。